

## 名取市立関上小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

(1)「子どもの命は守られたのか」兼見隆生編著(2011)かもがわ出版

### 【場所】

海岸から2km、名取川から600mほどの位置にある。

住所:宮城県名取市関上鶴塚52

※現在は別の場所で仮設の校舎で再開している。



### 【東日本大震災による被害】

津波により校庭と校舎1階が浸水。

### 【震災当日の様子】

地震発生後、防災無線が機能していなかったが、教職員が携帯ラジオで大津波情報を受け取り、マニュアル通り、津波が想定できる場合は校舎の3階に避難させるという行動を取った。その後、保護者が続々と児童を迎えに来たが、引き渡さず一緒に校舎上層階に避難させた。その後、予想時刻になっても津波が到達しなかったこともあり、15時43分頃から児童を3階から体育館に移して引き渡しを始めた矢先、津波が学校に押し寄せ、急いで再び校舎3階に避難し間一髪で助かった。(1)

### 【調査して言えること】

海から約2km離れているが、一級河川である名取川が近くにあり、また学校の標高は2mほどしかないので、地震の際に津波を警戒する必要がある学校である。

学校の周囲には高台が無く、高い建物もほとんどないため、学校外への避難は難しい。今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域からも約2.5km離れている。そのため、現在でも校舎は近隣住民の津波避難ビルとして利用されている。校舎の屋上に直接上がれる階段を整備しており、津波の際に避難しやすいように工夫されていた。



校舎(2014/11/1撮影)



避難用の外階段(2014/11/1撮影)

※校舎は現在でも避難ビルとして利用されている。